

## 本日のスケジュール

10:00 開会

10:05 – 11:10 ポスター発表者によるフラッシュトーク

今回出展している高校生のみなさんが、各自の発表内容について 60-75 秒で紹介します。

11:15 – 12:00 ポスター発表 ①

12:50 – 13:35 ポスター発表 ②

3階モールにて、①で 21 展示、②で 20 展示発表します。

未来大のオープンスペースで、日頃の探究・研究活動、科学関連の部活動の成果・中間発表・アイデアなどを発表します。

ぜひ、発表者との情報交換・意見交換を行ってください。

13:45 – 14:20 特別講演

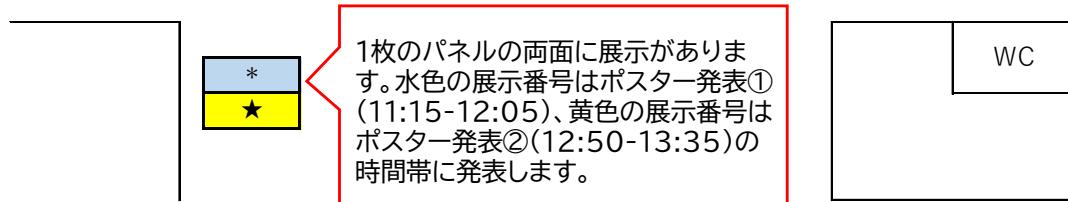
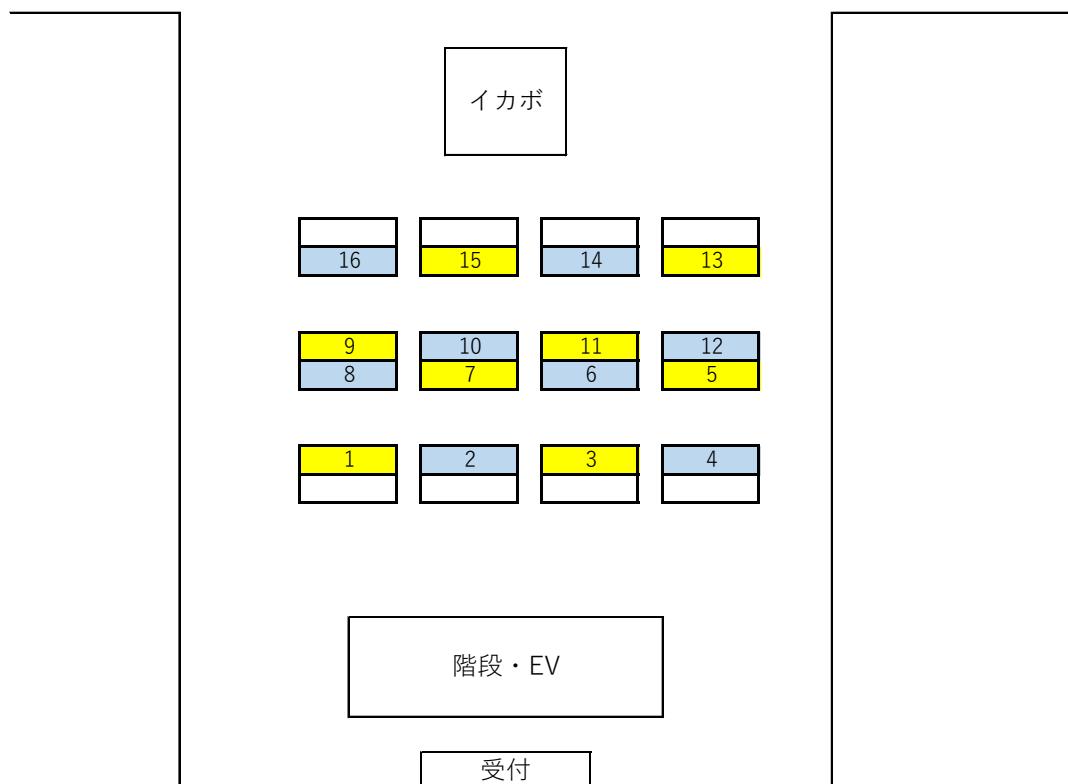
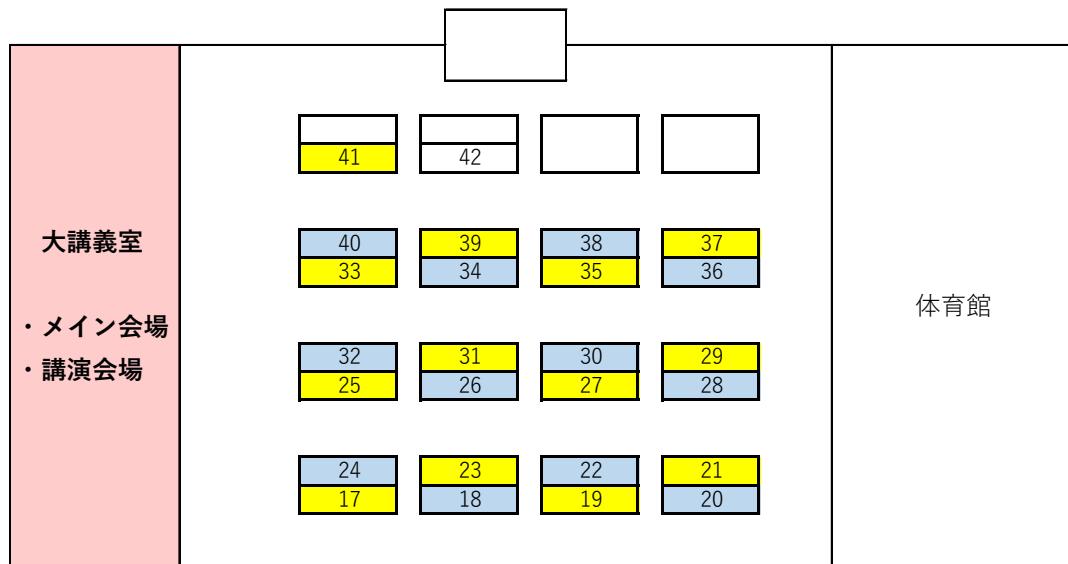
14:20 閉会

## サイエンス教育フォーラムinはこだて2025 発表タイトル・展示番号

No.	発表タイトル	高校名
1	ウチダザリガニの繁殖しやすい河川の特徴	市立札幌旭丘高等学校
2	テンセグリティ構造のタイヤを用いた月面ローバー開発	
3	カスケード分類器を利用した有孔虫化石識別システムの開発	
4	コンサドーレ札幌の勝敗と試合会場の関係	
5	札幌の発展について	
6	気候変動による暮らしへの影響について	
7	都市開発と交通量について	
8	トノサマガエルとトウキョウダルマガエルの麻酔を用いない識別法の確立	
9	豊平川と鮭の関係について	
10	避難所データから考える課題と解決策	
11	新たなエアモビリティについて	
12	アオサギの食性における外来種への依存	
13	アキアカネの孵化における有効積算温度と水温の関係	
14	半固体電解質を用いた鉛蓄電池の構築と性能評価	北海道函館中部高等学校
15	顔認証技術を応用してメディアファイルを効率的に検索する方法	市立函館高等学校
16	路面電車は地方再生の鍵になるのか	
17	情報社会と心理について	
18	ゲームを活用した地域活性化はどのような経済効果が生まれるのか。	
19	AIにImprovisationを数学的に演奏することは可能か？	北海道函館西高等学校
20	高齢者でもインターネットを使いややすくするには	
21	避難所への自動案内アプリの開発	
22	道南地域のこれから農業について	市立札幌開成中等教育学校
23	関税率が株価に与える影響とは？	
24	カカオ原料におけるカフェインの選択的除去法	
25	プラスチックを含有したコンクリートの有用性	
26	メタン発酵バイオガス発電におけるメタン発酵の効率化	旭川実業高等学校
27	位置情報活用アプリ「サクノリ」	
28	高大連携によるAI×VR面接練習システムの開発	北海道遠軽高等学校
29	AIを用いた玄米茶の黄金比率の科学的検討	立命館慶祥高等学校
30	カフェインは記憶力に影響するのか	
31	外れ値に強い標準化手法	
32	壁に当たれば必ず入るゴミ箱	
33	新単位Lafを定める	
34	AIは錯視に騙されるのか	
35	立って授業を受けることによる影響と現在の学校授業制度の再考	
36	クロレラからバイオ燃料の生成	
37	コーンポタージュのコーンを残さずに飲む方法	
38	サッカープレミアリーグにおけるジャイアントキリングと平均得点数との関係	
39	身近にある虫よけ剤の作用を持つものの探求	青森県立八戸工業高等学校
40	しゃっくりの誘発条件に関する実験的研究	
41	酸素環境の違いが微生物燃料電池の発電性能に与える影響	
42	磁場環境における銀樹の生成	

◎それぞれの展示場所は、展示番号と別紙の展示マップにてご確認願います。

# 展示マップ



※展示番号42はポスター展示のみの出展です。

# 高校生によるポスター発表概要

展示番号	1
タイトル	ウチダザリガニの繁殖しやすい河川の特徴
発表者 (所属・学年)	安部 碧 (市立札幌旭丘高等学校 2年)
概 要	ウチダザリガニの大規模防除に向けて自分たちで直接河川に行き、調査を行っています。実際にザリガニを捕獲し、その河川の特徴を掴むことを目標に調査を行い、結果からウチダザリガニの動向をつかむことで大規模な防除計画の実施に繋げたいと思っています。
展示番号	2
タイトル	テンセグリティ構造のタイヤを用いた月面ローバー開発
発表者 (所属・学年)	高橋 侑希, □ 大澄, 白木 琥珀, 吉田 悠人, 高橋 周央 (市立札幌旭丘高等学校 2年)
概 要	私達は、はこだて未来大学の三上教授が先行研究している「テンセグリティタイヤ」を使用した月面ローバーの研究を行っています。現時点で実際にテンセグリティタイヤを装着して砂場を走らせるに成功しました。しかし、多くの課題が見つかったため、改善するための計画と改良を行っています。
展示番号	3
タイトル	カスケード分類器を利用した有孔虫化石識別システムの開発
発表者 (所属・学年)	富谷 幸穂 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	私達はカスケード分類器を利用した有孔虫化石識別システムの開発を試みました。加えて、正解率向上に関わる教師画像、検査用画像の条件を検討しました。その結果、正解率の最大値が 72.5% の有孔虫化石識別システムの開発に成功し、正解率を最適化する諸条件を明らかにしました。識別システムを構築していく上で重要な知見を得ることができました。

展示番号	4
タイトル	コンサドーレ札幌の勝敗と試合会場の関係
発表者 (所属・学年)	上野 はな, 太田 莉奈, 片倉 寧々, 佐藤 裕美 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	私達はコンサドーレ札幌の試合会場と勝敗の関係について、ホームで試合をしたときの方が有利であり勝算が高いという仮説を立て、研究を行いました。研究方法としては、信憑性の高いオープンデータを用いて、勝率を出したり、ホーム、アウェイでの試合結果を各々積み上げ棒グラフに表しました。現在はより確実な研究結果を出すためにホームの時のほうが勝率が高い原因になりうるものを研究中です。
展示番号	5
タイトル	札幌の発展について
発表者 (所属・学年)	明石 徹平, 嶋峨 千結, 久吉 花音 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	私たちは働く世代が住みやすいまちを作るために、札幌市の各地区の人口と地下鉄、JR の乗降員数を分析しています。また、その分析結果から都市部と地方部の行き来をしやすくするためどこに駅を新しく配置すれば良いのか研究中です。加えて、SAPICA やKitacaなどの定期券を1枚にすることはできないのか調べています。
展示番号	6
タイトル	気候変動による暮らしへの影響について
発表者 (所属・学年)	野口 煌生, 椋澤 裕義, 宮地 豊 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	北海道(主に札幌市)の気候変動による暮らしの変化について、「光熱費」「環境」「農作物」の3点に注目して調査しています。現時点では、「環境」では、降水量の変化はあまりないものの、平均気温が年々上昇している。「農作物」は、温暖化による豊作の農作物もあるが、病気や暑さの影響で上手く育たないといった問題が起こっている。「光熱費」は、灯油消費量が多くなっている。ということが分かりました。

展示番号	7
タイトル	都市開発と交通量について
発表者 (所属・学年)	北山 史弥, 黒澤 芯平, 斎藤 舜弥 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	私達は札幌市のオープンデータを用い、交通量と人口のデータから都市開発に向いた土地を探しています。その結果、多くの場合で交通量が多いほど人口も多いということがわかりました。現在、交通量は多いが都市開発されていない場所を探し、そこをどのように開発するか、どのくらいの経済効果ができるかについて研究中です。
展示番号	8
タイトル	トノサマガエルとトウキョウダルマガエルの麻酔を用いない識別法の確立
発表者 (所属・学年)	勝目 那紗, 福地 結花 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	北海道にはトノサマガエルとトウキョウダルマガエルが定着しています。両種は国内外来生物であり、早急な分布把握が必須なため、簡易的な識別方法について研究しました。小隆条というイボ状の組織の調査を行った結果、個数や長さによって両種を識別できる可能性を見出すことに成功しました。
展示番号	9
タイトル	豊平川と鮭の関係について
発表者 (所属・学年)	鈴木 成来, 山崎 桜汰, 柴沼 巧樹 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	私たちは、豊平川の鮭をどのようにして増やすかという課題に対し、さけ科学館や札幌市水道局のオープンデータをグラフ化し、豊平川の鮭の遡上量や川の水質が鮭の生息数にどのような関係があるのかを考え、考察する予定です。

展示番号	10
タイトル	避難所データから考える課題と解決策
発表者 (所属・学年)	小堀 ちゆき (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概要	私達は札幌の避難所が人口や災害の頻度を考慮した数になっているのか調べました。札幌市が出している避難所ポータルという避難所マップや区ごとの避難所が掲載されているサイトを使ったり、オープンデータを活用して調べました。
展示番号	11
タイトル	新たなエアモビリティについて
発表者 (所属・学年)	西海 伶耶, 似鳥 雪成, 山田 樹 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概要	僕達はエアモビリティシステムについて研究しています。現在地球温暖化が進んでいる世界。その主な温室効果ガスである二酸化炭素に着目し、二酸化炭素を応用したものを開発したいと考えました。ドライアイスが昇華する時、昇華した CO <sub>2</sub> ガスがドライアイスと床の間に薄い空気の層を作り、摩擦が極端に少なくなることを利用し、ものを動かせるようにしようとしました。ものを実際につくり試行錯誤を重ねた結果、見事少ない力でもものを動かすことに成功させました。
展示番号	12
タイトル	アオサギの食性における外来種への依存
発表者 (所属・学年)	岡田 全 (市立札幌旭丘高等学校 2年) 根岸 光 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概要	私たちはアオサギが餌としてどの程度外来種へ依存しているかについて札幌市篠路の個体を対象に研究しました。結果としては今回用いた炭素窒素安定同位体比による分析のみでは困難ということがわかりました。 今後は今回得られたデータも生かしながら DNA などの追加アプローチを検討します。

展示番号	1 3
タイトル	アキアカネの孵化における有効積算温度と水温の関係
発表者 (所属・学年)	岩谷 韶, 寺村 凌成 (市立札幌旭丘高等学校 1年)
概 要	<p>本校サイエンス部では以前、アキアカネの有効積算温度は種に固有の一定値ではなく、卵の発育時の経験水温によって変化するという性質を明らかにしました。そこで私たちは、アキアカネの卵の発育のうち、年内と年明けのどちらの影響を大きく受けるのかについて、年内と年明けで温度条件を変えた孵卵器を用いて研究しました。その結果、年内に大きく影響を受け有効積算温度を伸ばし、年明けも有効積算温度が小さくならないことを明らかにしました。</p>
展示番号	1 4
タイトル	半固体電解質を用いた鉛蓄電池の構築と性能評価
発表者 (所属・学年)	三笠 蒼依, 菅藤 旬, 猪狩 壮二朗, 横内 涼音 (北海道函館中部高等学校 2年)
概 要	<p>本研究では、ゲル化剤を添加することで従来の液体電解質を半固体電解質に代替し、電池を半固体化させた。そして、ボルタ電池の発電原理に基づき、鉛と自作の酸化鉛電極を用いた半固体鉛蓄電池を試作し、性能評価を行なった。</p>
展示番号	1 5
タイトル	顔認証技術を応用してメディアファイルを効率的に検索する方法
発表者 (所属・学年)	中野 颯太 (市立函館高等学校 2年)
概 要	<p>放送局で 3 年生の思い出映像を制作する際、該当生徒の映像抽出に時間を要した経験から、顔認証技術を活用し、複数動画から効率的に 3 年生を検出するシステム開発を目指す研究である。※現在、探究テーマ決定と方法検討の段階です。発表会では途中経過となりますが、より良い探究にするため助言をいただけると幸いです。</p>

展示番号	1 6
タイトル	路面電車は地方再生の鍵になるのか
発表者 (所属・学年)	大野 紘輔 (市立函館高等学校 2年)
概 要	<p>鉄道と都市デザインを結びつけ、函館市電を通して路面電車の価値を研究する。注目の背景や活用法を探り、人口減少都市における移動の利便性や地域活性化に貢献できる可能性を明らかにすることを目的とする。</p> <p>※現在、探究テーマ決定と方法検討の段階です。発表会では途中経過となりますが、より良い探究にするため助言をいただけ幸いです。</p>
展示番号	1 7
タイトル	情報社会と心理について
発表者 (所属・学年)	小山 湖善梨 (市立函館高等学校 2年)
概 要	<p>情報社会の進展によって人々のネット上での関わり方や心理にどのような変化が生じたのかを明らかにすることを目的とした研究である。</p> <p>※現在、探究テーマ決定と方法検討の段階です。発表会では途中経過となりますが、より良い探究にするため助言をいただけ幸いです。</p>
展示番号	1 8
タイトル	ゲームを活用した地域活性化はどのような経済効果が生まれるのか。
発表者 (所属・学年)	谷口 友紀奈 (市立函館高等学校 2年)
概 要	<p>経済分野への関心と地元産業への貢献を両立させ、函館の観光産業とゲームを結びつけた地域活性化の可能性を探る。先行事例の分析を基に、独自性あるイベント企画を提案することを目指す。</p> <p>※現在、探究テーマ決定と方法検討の段階です。発表会では途中経過となりますが、より良い探究にするため助言をいただけ幸いです。</p>

展示番号	1 9
タイトル	AI に Improvisation を数学的に演奏することは可能か？
発表者 (所属・学年)	木村 健助 (市立函館高等学校 2 年)
概 要	<p>Jacob Collier の “All I Need” チャレンジをきっかけに、AI が即興演奏をどこまで行えるかに関心を持った。AI による Improvisation の可能性を探り、音楽業界や AI への理解を深めたい。</p> <p>※現在、探究テーマ決定と方法検討の段階です。発表会では途中経過となりますが、より良い探究にするため助言をいただけ幸いです。</p>
展示番号	2 0
タイトル	高齢者でもインターネットを使いやすくするには
発表者 (所属・学年)	村田 大翔 (北海道函館西高等学校 2 年)
概 要	<p>ICT 機器の発達により、私たちの日常生活にはインターネット、スマートフォンなどが欠かせないものとなっています。一方で高齢者は便利な機能を使うことができずに困っている人も多いと思います。そんな高齢者が簡単にインターネットを使いこなすにはどのようにしたらよいかを考えます。</p>
展示番号	2 1
タイトル	避難所への自動案内アプリの開発
発表者 (所属・学年)	山本 劉誠 (北海道函館西高等学校 2 年)
概 要	<p>災害時に避難する際、多くの人が不測の事態に対応できずどこへ避難したら適切かを柔軟に判断することができないと考えます。そこで、私たちの日常のパートナーであるスマートフォンを活用して、災害時に位置情報を活用し音声読み上げや AI などの機能を活用した新しいアプリの可能性について考えました。</p>

展示番号	2 2
タイトル	道南地域のこれから農業について
発表者 (所属・学年)	梶 智明 (北海道函館西高等学校 2年)
概 要	農業×AIについて考えます。函館を中心とする道南地域において、農業を活性化させたいと考えています。農業をより効率的に行うために、AI、ドローンなどを活用して作物に適した対応をするにはどうしたらよいかを考えていきます。
展示番号	2 3
タイトル	関税率が株価に与える影響とは?
発表者 (所属・学年)	寶田 光貴, 金谷 匠真 (市立札幌開成中等教育学校 5年)
概 要	各国がかける関税が、株式市場においてどのような影響を与えたかを述べ、関税の経済的な性質について調査する。
展示番号	2 4
タイトル	カカオ原料におけるカフェインの選択的除去法
発表者 (所属・学年)	条川 妃那, 条田 優月 (市立札幌開成中等教育学校 5年)
概 要	飲料のデカフェ技術を応用し、カカオ原料からカフェインを選択的に除去する技術の開発に取り組んでいます。
展示番号	2 5
タイトル	プラスチックを含有したコンクリートの有用性
発表者 (所属・学年)	竹中 ひなた, 藤谷 琉花 (市立札幌開成中等教育学校 5年)
概 要	廃棄プラスチックの削減のためにコンクリートの粗骨材の一部にプラスチックを含有し様々な強度実験を行っています。

展示番号	2 6
タイトル	メタン発酵バイオガス発電におけるメタン発酵の効率化
発表者 (所属・学年)	喜多 唯斗 (市立札幌開成中等教育学校 5年)
概 要	食品残渣を用いたメタン発酵で効率的にメタンガス生成量を増やすための投入物設計や、原料ブレンド戦略を考察

展示番号	2 7
タイトル	位置情報活用アプリ「サクノリ」
発表者 (所属・学年)	穴口 そよ花, 家村 太士, 大村 健斗, 吉田 恵悟 (旭川実業高等学校 2年)
概 要	<p>公共交通機関の位置情報を活用し、バスナビゲーションや目覚まし機能などを組み合わせて、次世代の移動をより快適にするアプリケーションシステム。</p> <p>目的地が近づくと、無音の振動やイヤホンからのアラームで利用者に通知し、乗り過ごしを防止する。また、乗車予定の路線案内や、誤って別路線に乗ってしまった場合の通知機能を備える。</p> <p>さらに、バスの現在地や混雑状況をリアルタイムで把握でき、満員を避ける行動を支援するなど、移動中の安心と効率を両立させる仕組みを実現する。</p> <p>本システムは、利用者一人ひとりの移動体験を最適化するとともに、公共交通全体の利便性を高める総合的なアプリケーションを目指している。</p>

展示番号	2 8
タイトル	高大連携による AI×VR 面接練習システムの開発
発表者 (所属・学年)	池田 七音, 高橋 凜華, 辻 草大, 横山 遼介, 植山 雅久, 成田 心夢 (北海道遠軽高等学校 3年)
概 要	北見工業大学と北海道遠軽高等学校が連携し、AI と VR を活用した面接練習システムを共同開発している。高校生の意見をもとに改良を重ね、大学がアプリケーションを構築する。高校生は共同研究を通して、情報活用力やキャリア意識の向上を図る。

展示番号	29
タイトル	AI を用いた玄米茶の黄金比率の科学的検討
発表者 (所属・学年)	倉重 宝純 (立命館慶祥高等学校 2年)
概 要	北海道産の玄米茶を自家焙煎をして、その玄米茶の適切な比率を明らかにする。各試料について味覚や香りについての段階評価を実施して、複数の評価者が五感で判断し、適切な香り・味を探る。
展示番号	30
タイトル	カフェインは記憶力に影響するのか
発表者 (所属・学年)	波方 珀人 (立命館慶祥高等学校 2年)
概 要	コーヒーに含まれるカフェインが、単に眠気を抑えるだけなのか、それとも記憶の定着にも影響を与えるのかを明らかにする。また、いくつかの AI を使い、分析方法の違いによってどのような結果の差が生まれるのかを調べる。
展示番号	31
タイトル	外れ値に強い標準化手法
発表者 (所属・学年)	朝日 應輔 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	従来の標準化は平均との距離で計算しているため、外れ値があつて平均がおおきく偏ると標準化した数値も偏ってしまう。そのため今回はブートストラップ法の中央値との距離で計算して外れ値に強い標準化手法を提案する。
展示番号	32
タイトル	壁に当たれば必ず入るゴミ箱
発表者 (所属・学年)	枝 晃獅 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	バスケにはゴール下のシュートのようにここに当たれば必ず入るというポイントがある。それをゴミ箱に応用すれば、壁に当たれば必ず入るゴミ箱ができるのではと思い試作した。

展示番号	3 3
タイトル	新単位 Laf を定める
発表者 (所属・学年)	小栗 春樹 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	mol をより教えやすく、わかりやすくするための単位を作ろうとした。化学基礎の問題を見て H <sub>2</sub> O が多く使用されていたため、親しみやすいアニメキャラの雪だるまを元に独自の単位を作った。複数の高校生に使用感を尋ねたところ、特定の設問に対しては解答の簡便化の効果が見られたが、mol の理解には効果がないことが分かった。
展示番号	3 4
タイトル	AI は錯視に騙されるのか
発表者 (所属・学年)	小野 朝陽 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	AI は人間と同様に錯視に騙されるのかを調べた。AI は錯視画像では誤認しなかったため、人にはほとんど見えない微小なノイズを加える FGSM 攻撃を行い、AI がどのように反応するかを調べた。
展示番号	3 5
タイトル	立って授業を受けることによる影響と現在の学校授業制度の再考
発表者 (所属・学年)	金近 桢宗 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	現在の学校が抱える問題を直接学校にインタビューし、問題点である座って授業をすることはもう遅いのではないかということに切り込み立って授業を受けることによる影響とグループワークの勉強効率を研究します。

展示番号	3 6
タイトル	クロレラからバイオ燃料の生成
発表者 (所属・学年)	樹神 瑠風 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	クロレラを培養し、脂質を抽出、エステル化してバイオディーゼル燃料を生成する過程を検証し、他の燃料との比較をする実験です。また葉緑体をもっているため光合成との関係から環境を支える燃料になるのかを考える。
展示番号	3 7
タイトル	コーンポタージュのコーンを残さずに飲む方法
発表者 (所属・学年)	佐藤 大幹 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	缶コーンポタージュを飲む際に最後に残るコーンをできるだけ少なくするためには、どのような飲み方が最適なのかを探る研究。缶の飲み口付近を凹ませるとコーンが残りづらいことが分かっている。本研究では主に缶の振り方に重点を置いて検討する。
展示番号	3 8
タイトル	サッカープレミアリーグにおけるジャイアントキリングと平均得点数との関係
発表者 (所属・学年)	志村 凌 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	イングランドプレミアリーグでどういった条件下にあると格下のチームが格上のチームに勝てる可能性が高くなるのかを平均得点力を目的変数としてロジスティック回帰分析で調べる。

展示番号	3 9
タイトル	身近にある虫よけ剤の作用を持つものの探求
発表者 (所属・学年)	高橋 尚万 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	普段自分が口にするものやよく見るものの中で虫よけ剤としての作用を持つにおいの強いものを探す。効果があるにおいを見つけて出し市販で売っているの化学物質を使った虫よけ剤よりも肌などの身体に優しい、犬や子供にも使える虫よけ剤を作り出す。
展示番号	4 0
タイトル	しゃっくりの誘発条件に関する実験的研究
発表者 (所属・学年)	山田 琢人 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	この研究では、しゃっくりがどのような条件で起こるのかを明らかにすることを目的とする。水の温度や飲み方の違い、また年齢による出やすさの差などを比較し、どのような要因がしゃっくりを引き起こしやすいのかを実験的に調べ、意図的にしゃっくりを出す方法を探る。
展示番号	4 1
タイトル	酸素環境の違いが微生物燃料電池の発電性能に与える影響
発表者 (所属・学年)	山本 晃世 (立命館慶祥高等学校 3年)
概 要	この研究は、酸素の有無による発電性能の違いを明らかにすることを目的として、嫌気性条件下と好気性条件下で微生物燃料電池を使用し、発電効率を比較する。微生物の代謝経路や電子伝達の違いが電極への電子移動量や電圧にどのような影響を与えるかを検討し、酸素環境が発電に及ぼす要因を明確にすることを目指す。
展示番号	4 2
タイトル	磁場環境における銀樹の生成
発表者 (所属・学年)	田名部 優心 (青森県立八戸工業高等学校 2年) 坂下 蒼空, 中村 祐稀 (青森県立八戸工業高等学校 1年)
概 要	銀樹の生成過程で磁場をかけることで発生する現象を実験した。実験結果を考察し、銀イオンにはたらくローレンツ力により銀樹の発生状況が変わると結論付けた。

## 特別講演

(講演タイトル)

**コウモリから学ぶ超音波ナビゲーション  
－行動計測・数理モデリング・ドローン実装が  
切り開く生物知と人工知の未来－**

(講師)

**山田 恭史 先生**

**公立はこだて未来大学 複雑系知能学科 准教授  
(専門分野: 生物模倣工学・音響工学)**



コウモリは視覚を退化させる代わりに聴覚を高度に発達させることで、人工のドローンシステムをはるかに凌駕する3次元空間ナビゲーションを音だけで実現させています。本講演では、コウモリの知性に対し、測って・数式化して・作ることで理解してきた分野横断型のコウモリ研究例について紹介し、融合研究の魅力や次世代の研究者として求められることについて考えてみます。

＜山田先生の考える「研究の魅力」：公立はこだて未来大学Webサイトより抜粋＞

『自由自治のもとで、大の大人が全力で挑む自然科学との知恵比べ』この点に、私は研究のロマンを感じています。さらに、自身の成果が国際原著論文として採択されると、google scholar からいつでもどこでも検索し、読むことができます。それらデータベースは我々の死後も消えません。つまり、人類の英知のささやかな1ページとして、生きた証が未来永劫残るのです。全力で挑むに値する価値が、そこにはあると思いませんか？

音楽と生き物が好きで学部生の時にそれとなく始めた研究活動ですが、いつの間にかどっぷりハマって人生が変わっていました！私と一緒に研究の楽しさを探してみませんか？